

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 10 月 30 日	
所属部局・職	京都大学理学研究科・修士課程 1 回生
氏名	櫻井裕子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
屋久島	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
屋久島フィールド実習 (植物班)	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 27 年 10 月 18 日 ~ 平成 27 年 10 月 24 日 (7 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
今回の実習では、屋久島のシダの採集と同定とその多様性についての解析を行った。採集は宮之浦川、女川、花揚川にて行い、シダの孢子体 (sporophyte) と配偶体 (gametophyte) を採集した。シダの配偶体は 5mm 程度で非常に小さいため探すのが難しい。しかし、そのために土や岩の表面を注意深く見ていると、シダだけでなく様々な苔やその他の植物を見ることができ興味深かった。採集したシダは図鑑をもとに同定し、各採集場所で見つかった種や種の数解析した。その結果、3つの川で共通して見つかった種は3種類しかなく、屋久島のシダがいかに多様かということがよくわかった。また、道路から離れた山奥になるにつれて見つかった種は多くなっており、人の手が加わっていない場所では多くの種が保存されているのではないかと考えられた。それだけでなく採集場所によって川周辺の環境が異なっていたため、湿度などの環境の違いも種の多様化に寄与している可能性があると考えられた。 この実習で得られた結果は、屋久島に自生するシダの多様性を理解し、それらを保全する上で重要となるだろう。今後、より多くの場所での採集と解析が必要であると考えます。	
	
孢子体 (sporophyte)	配偶体 (gametophyte)

6. その他 (特記事項など)

今回の実習では、他では得難い非常に貴重な経験をさせていただきました。実習参加にあたり統率やご指導くださいました先生方や PWS スタッフの皆様、実習を共にした実習生の皆様に感謝申し上げます。